

編集後記

本号の特集は三木健司先生による「オンライン診療への取り組みと今後の展望」です。最近ではオンライン会議や、完全オンラインあるいはハイブリッド方式での学会もすっかりおなじみになり、かえって移動の手間が省けるので重宝している方も多いのではないのでしょうか(私もそうですが)。近年のICTやAIに代表されるテクノロジーの進歩は著しく、これらの技術に対する医療分野の期待はとりわけ大きなものです。特にオンライン診療については高齢化による受診困難者への対策や医師偏在対策など様々な面で期待されており、政府としても以前から遠隔医療技術の活用推進の方向性を打ち出しています。また新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い、感染に対する不安から患者の病院受診控えがみられる中で、必要に迫られてオンライン診療が一気に進むのではないかと予測されました。

しかし実際はというと、未だにオンライン診療に対応している医療機関はごく一部にとどまっており、特に整形外科領域ではほとんど進んでいないのが現状です。この原因としては、オンライン診療の診療報酬上の位置づけに時間がかかったこと、また対面診療とは異なる様々な規制がオンライン診療に課せられていることなどがあると考えられます(三木先生の項、岸本・木下先生の項参照)。しかし海外では既にオンライン診療が通常診療の一部になっている国もあり、わが国でも厚生労働省が少しずつ規制緩和に取り組んでい

ます。本特集では厳しい規制の中でも様々な工夫をしてオンライン診療に取り組んでおられるという事例の紹介もあり、今後オンライン診療を取り入れようと考えておられる方々には大変参考になるのではないかと思います。

一方で対面的な要素をなくすことは、患者との直接的な接触が減少するということであり、医療従事者側としてはそのあたりの懸念があるのは確かです。治療のことを「手あて」と呼ぶことからわかるように、患者に触れることによる治療的な効果は決して馬鹿にはできません。特に整形外科では徒手的な診察が重要で、これは中々オンラインでは再現できないように思います。また少し話は異なるかもしれませんが、スキップによって神経ペプチドであるオキシトシンの分泌が促進されて心の安定化やストレスの軽減にもつながることが報告されており、「触れる」ことの重要性は科学的にも指摘されています。尊敬するWilliam Osler先生の言葉として「3時間の机上での勉強よりベッドサイドの15分が勝る(Fifteen minutes at the bedside is better than three hours at the desk.)」というものがありますが、15分にオンライン診療は含まれるのでしょうか。バーチャルリアリティーなどが充実すれば可能かもしれませんね。

(田中 栄)

「整形・災害外科」第65巻 第1号(1月号) 2022年1月1日発行(毎月1回1日発行) 定価 2,860 円(本体 2,600 円+税 10%) 年間購読料金 定価 44,660 円(本体 40,600 円+税 10%) [年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代] [年間予約購読者に限り送料無料]	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03(3811)7165 [編集室直通] TEL 03(3811)7184 [営業部直通] FAX 03(3813)0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03(5226)2791
--	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。